

## 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4792400030		
法人名	株式会社ベストビジネスコミュニケーション		
事業所名	認知症対応型グループホーム結の郷		
所在地	沖縄県中頭郡北谷町吉原1180-1		
自己評価作成日	令和3年 12月22日	評価結果市町村受理日	令和4年 6月 8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/47/index.php?action_kouhyou_detail_022_kihon=true&amp;JigvsoCd=4792400030-00&amp;ServiceCd=320">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/47/index.php?action_kouhyou_detail_022_kihon=true&amp;JigvsoCd=4792400030-00&amp;ServiceCd=320</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 介護と福祉の調査機関おきなわ
所在地	沖縄県那覇市西2丁目4番3号 クレスト西205
訪問調査日	令和4年 4月 8日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>家庭にいるような雰囲気の中、職員とおしゃべりを楽しんだりくつろいでテレビを見たりしています。体操・脳トレ・家事手伝い・お散歩など気分転換を図り認知症状が悪化しないように支援しています。入居者様はリハビリを兼ねての階段使用や、ホームエレベーターを利用して3階の居室へ移動している。畳敷きの部屋や床の間など自宅にいるような環境の中利用者は沖縄芝居をユーチューブを鑑賞したり、地域の出身者も多く天気の良い日には、職員と散歩に出かけています。</p>
--

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所は、3階建ての民家をグループホームの暮らしに合わせて改修し、畳敷きの部屋や床の間など家庭的な造りとなっている。事業所入口には、桜の木があり、花が咲く時期には縁側から花見ができる落ち着いた場となっている。事業所の駐車場は、地域住民の待ち合わせ場所となっており、利用者と挨拶を交わすなど、日常的に付き合いがある。事業所の理念「利用者一人一人の尊厳を守る」等、7項目を掲げ、利用者に合ったより良い介護サービスの提供に努めている。食事は事業所で3食とも調理し、利用者は野菜の下ごしらえや調理に参加している。利用者からのリクエストでサンドイッチや刺身、手作りピザ等も提供し、職員も利用者と一緒に摂っている。誕生日会には家族から果物やケーキ等の差し入れもあり、利用者に喜ばれている。コロナ禍にあって、利用者と家族が、電話やライン等で会話ができるよう支援している。職員は、家族の要望に応え、車イス仕様車を運転し、車イス利用者の通院支援を行っている。入居以前から、ベッドサイド等へ「盛り塩」を行っていた利用者の思いを汲み取り、寄り添う支援をしている。</p>
---

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり、深まったりし、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

確定日:令和4年 5月30日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ミーティング時など、職員が悩んだときに理念をもとに話し合い理解を深め共有しています。	事業所の理念は「利用者一人一人の尊厳を守る」等、7項目を掲げて支援に取り組んでいる。事故発生時やコロナ禍で職員の負担が過重になった場合には、職員ミーティングで話し合い、理念を振り返り、利用者一人ひとりに合った介護サービスの提供に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナウイルスの影響で施設内に招き入れる機会は減っていますが、近所の方とお話したりしています。	事業所の駐車場は、地域住民の待ち合わせ場所となっており、利用者と挨拶を交わすなど、日常的に付き合いがある。管理者は、住民から認知症について相談を受ける場合もある。利用者は、加入している自治会の公民館に散歩がてら、区長へあいさつに行くなど、交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナウイルスの影響で地域の方たちとの関りが少なくなっており活かせていません。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホーム内の活動状況報告、ヒヤリハットを報告し意見、助言をいただいています。	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、今年度は2回、職員と利用者のみで会議を実施し、家族や行政等には郵送で報告を行っている。会議録には、利用者の状況や活動内容、ヒヤリハット・事故報告などが記載されている。感染症対策で厳しい期間以外の時期についても、定期的な書面会議等の開催や報告書等は確認できなかった。事業所の運営状況などについて、各委員との意見交換の実施や会議録への追記がされていない。	運営推進会議は、おおむね2か月に1回の開催が必須とされているため、年6回の定期的な会議の実施が望まれる。コロナ禍での会議開催の方法や委員からの意見や課題改善についての聞き取りの工夫、議事録の整備も望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	コロナウイルスの影響で連絡を密に取り合う事は減っていますが、グループホーム連絡会やケアマネの勉強会に参加し連携しています。	行政職員が運営推進会議の構成員として参加している。町主催のグループホーム連絡会やケアマネジャーの勉強会へ参加し、情報交換を行っている。新型コロナウイルス感染症対策として、マスクやアルコール、抗原検査キットの寄贈が行政からあり、協力関係を築いている。	

自己評価および外部評価結果

確定日:令和4年 5月30日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアの方針を作成、マニュアルを整備し定期的な施設内	身体拘束等の適正化のための指針を作成し、運営推進会議委員を含め、3か月に1回委員会を開催している。事業所内外の「身体拘束廃止」の勉強会へ参加している。薬物の過剰投与で行動を制限するドラッグロックも身体拘束であることを委員会で話し合い、職員は情報を共有し対応している。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的な施設内勉強会を開催しています。課題を職員一人で抱え込まないよう、情報共有、意思疎通の為に不定期に話し合いを設けたりしている。	高齢者虐待防止の徹底については、重要事項説明書に明記され、マニュアルを整備している。職員は、「高齢者虐待防止法と身体拘束廃止」について、事業所内勉強会に参加し、ウェブ研修も受講している。職員は、ストレスチェックを実施し、ストレス対処のきっかけとしている。管理者は、職員のストレスには、休みやシフト調整で対応している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	資料を参考にホーム内で勉強会を開催している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前、入居時にご家族様に説明を行い契約時にも説明を行っています。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の意見は日々の支援の中で直接聞いている。家族からは面会時、直接電話などで聞いている。運営推進会議の中で家族から意見を話せる機会を設けるようにしています。	利用者の意見や要望は、日常の会話などで聞いている。家族からは、面会時や電話、ラインなどで聞いている。家族の要望に応え、職員は、車イス仕様車を運転し、車イス利用者の通院支援をしている。自宅での宿泊時には、車いすやシャワーチェアを貸す等の支援をしている。家族からの、利用者の居室のベッドサイドや出入り口への「盛り塩」設置の要望に応じている。	

自己評価および外部評価結果

確定日:令和4年 5月30日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見は個別面談、業務の中にも随時間聞いています。	職員の休憩時間を確保するための業務時間帯の変更や居室のベッドサイド用テーブルの購入など、職員の意見が反映されている。「研修制度の導入の提案書」を提出し、実務者研修の研修費の免除や資格取得に関する書籍購入としての年間5千円の図書券支給に反映されている。	
12	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は年一回以上個別面談を実施し意見や要望を聞き一人ひとりの健康づくりに配慮しています。	法人の就業規則が整備され、昇給や資格手当等が規定されている。実務者研修の研修費の免除や年間5千円の図書券の支給があり、職員のやる気につながっている。夜勤者は年2回の健康診断が実施され、全職員が受診している。年次有給休暇については、職員の希望を取り入れた勤務表が作成され、職員は年休を取得することができている。	
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は職員の意見、提案を代表に報告し改善が必要な時は伝え取り組んでいます。ホーム内で認知症基礎知識の勉強会をしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナウイルスの影響で同業者との交流は減っていますが、Zoom研修などになるべく参加し質の向上に図っています。		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居相談時に本人や家族に施設見学をして頂きまた何度かご本人に会いに行き挨拶を交わし不安を取り除くようにしています。		

自己評価および外部評価結果

確定日:令和4年 5月30日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談時に本人や家族に施設見学をして頂きまた連絡を取り合い不安や要望を聞いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の意向を把握し安心して生活ができるように職員と一緒に検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員はゆったり時間をともに過ごしコミュニケーションがとれ信頼関係を築くようにしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の訪問時、電話などで生活の様子を伝え、家族もできることは一緒にしています。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまでは、お盆や正月など帰宅支援をしていましたがコロナウイルの影響でこのような支援は控えています。	事業所の床の間には、利用者の書いた書画を掛軸にして飾り、くつろげる場所としている。利用者が教師をしていた頃に詠んだ琉歌が書かれた歌碑のある地域の公園に利用者と一緒に巡る等、利用者のこれまでの生活歴を尊重した支援をしている。利用者がこれまで続けていたベッドサイド等への「盛り塩」の設置も継続支援している。	

自己評価および外部評価結果

確定日:令和4年 5月30日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う入居者様同士の席の配置、トラブル回避のための距離の工夫しい関係で過ごせるように対応しています。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	転所先に情報提供を行っている。家族が訪れたりすることもある。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の思いは普段の生活の中から聞いている。ドライブに出かけたり居室の模様替えと一緒に考え行うなどまたは把握が難しい方は家族から聞いたことを本人の表情や言動から組取って支援しています。	思いや意向は、利用者からは日常会話の中で聞き、言葉が出しづらい利用者は、家族からの情報や動作、表情で把握している。利用者の「マグロの刺身が食べたい」の要望に応え、ノンアルコールビールと合わせて楽しんでもらう等、個別対応の支援をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族からの情報、確認をしながら生活が継続できるように支援しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の生活リズム、心身の状態の変化を把握し職員と共に共有し支援している。		

自己評価および外部評価結果

確定日:令和4年 5月30日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族、本人の意見、要望を聞き職員と生活の様子、状態を確認し合い介護計画を作成しています。	サービス担当者会議は、利用者と家族等が参加し実施している。介護計画は長期目標、短期目標とも6か月で設定され、モニタリングは3か月ごとに実施している。「本人が食べたいものを食べて、美味しいと感じてほしい」との家族ニーズに対し、短期目標は「無理のない程度に食べて、体力が落ちないようにする」等、介護計画を作成し支援している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	普段の生活の様子や気づきは個別記録に記入し情報を共有しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族、他の事業所からのアドバイスを受けながらニーズに対応できるように支援しています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今までは地域の行事などに参加していましたが、コロナウイルスの影響で参加できていません。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	看護師が週二回ほど出勤し、相談・助言を受けています。園では訪問診療の方が半数程いらっしゃるので医師や看護師との連携がとりやすくなり適切な医療を受けられるように支援しています。	利用者の5名は入居前からのかかりつけ医へ外来受診し、4名は訪問診療での受診となっている。外来受診は基本的に家族対応で利用者の状況等を書面や電話などで情報提供している。家族からの希望で病院受診時の送迎も支援している。職員から説明が必要な場合には、職員が同席している。訪問診療時は職員が立ち会い、家族へ電話で報告している。	

自己評価および外部評価結果

確定日:令和4年 5月30日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者様の体調の変化など介護職員同士でしっかり把握し看護師に報告、助言を受け必要であれば受診できるように支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医師や看護師から経過や治療内容を家族と確認等行っています。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重症化した場合の対応の指針の説明、理解をいただいております。訪問診療の方とも連携をとり支援しています。	重度化や終末期に向けた方針を契約時に利用者や家族へ説明を行い、意向を確認している。令和3年度は一件の看取りケアが行われている。利用者の状態変化に応じ、看取りについては、本人及び家族の意向を再確認、説明を行い、主治医や訪問看護との連携を行っている。管理者は職員へ看取りの実践ができるように勉強会を実施している。	
34	(15)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルがあり、急変や事故発生時には対応できる体制である。	利用者の急変や事故発生時に備えて緊急対応マニュアルや緊急時の連絡体制等が整備されている。事故報告書やヒヤリハット報告書には対応策等を含め記載し、作成されている。急変や事故発生時に備えて職員間で周知し再発防止に努めている。	
35	(16)	○災害や感染対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。また、感染症の予防やまん延防止の為に委員会の開催や指針を整備し、研修及び訓練を定期的実施している。	年二回消防訓練を行ってます。また感染対策は研修などに積極的に参加しています。	年2回の昼夜想定避難訓練を実施している。コロナ禍での避難訓練のため、家族や近隣住民の参加はなかった。水や食料等の備蓄品は2階のキッチンや押し入れに保管されており、職員への保管場所の周知も行われている。感染症予防や蔓延防止のためのマニュアルが整備されている。	



自己評価および外部評価結果

確定日:令和4年 5月30日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(17)	○一人ひとりの <b>人格</b> の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄時や入浴時など配慮した声掛け対応できるように常に心がけています。	職員は利用者一人ひとりの人格を尊重した声掛けで対応している。「トイレへ行く」等の言葉を嫌がる利用者には、「そろそろ集まる時間なので準備しましょう」との声掛けをし、介助している。入浴や排泄時には利用者の意向に応じて同性介助を行う等の配慮に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の言葉にしっかりと耳を傾け状態に合わせた対応ができるように心がけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	トイレ行きたいのか、休みたいのか等ひとつひとつ本人に確認を取り支援できるように心がけています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時はしっかり顔を拭いたり、ブラッシングしたりきれいな身だしなみで過ごせるように支援しています。		
40	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員と一緒に食事準備や片付けをし家事に参加して頂いています。	食事は、事業所で3食とも調理している。3名の利用者は、野菜の下ごしらえや調理に参加している。管理者は、利用者と同じ食事を一緒に摂っている。利用者からのリクエストでサンドイッチや刺身、手作りピザ等を提供している。誕生会等には家族から果物やケーキ等の差し入れもあり、イベントにはオードブルを手作りし、提供している。	

自己評価および外部評価結果

確定日:令和4年 5月30日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご本人の状態に合わせた食事形態、好み栄養バランスの工夫をし暖かい飲み物や甘い飲み物など提供しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	介助が必要な方は職員が口の中の残食を取り除いたりし本人に合わせた口腔ケアをおこなっています。		
43	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々に合わせた排泄誘導、声掛けを行っています。	利用者一人ひとりの排泄パターンを介護記録で把握し、本人の表情等にも気配りし声を掛け、トイレで排泄を支援している。重度の利用者へも1日1回はトイレの便座へ座ってもらい、トイレ排泄を工夫して支援している。失敗した場合でも利用者が傷つかないように素早く対応している。2階の居間から3階のトイレまで階段を上り下りすることで下肢筋力を維持し、排泄動作が自立できるように職員が付き添って支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事内容の工夫、適宜な運動を支援しています		
45	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本、午前中に入浴を実施していますが、本人の気分に合わせて時間帯を変えたり職員を変えたりして対応しています。	入浴は、週3回の午前中を基本としている。利用者の「夜、寝る前に入りたい」の希望や排泄時に失敗した場合にも調整を行い、いつでも利用者にした対応ができるように支援している。入浴を好まない利用者へも声掛けや介助の仕方、職員を変えたりして工夫し対応している。	

自己評価および外部評価結果

確定日:令和4年 5月30日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調や状況に応じ自由に休息できるように対応しています。		
47	(21)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師が1週間分セットし毎食後職員が準備し職員二人でダブルチェックを行っています。宅配してくれる薬局と契約している方もあるので薬剤師から副作用や飲み方など助言を頂いています。	服薬支援に関するマニュアルが整備され、職員が確認できる場所に掲示している。服薬管理は看護師が1週間分をセットした後、毎食後に職員2人で名前、薬のチェックを行なっている。令和3年7月と令和4年2月に他利用者の薬を服用させる事故が発生している。いずれも事故報告書が作成され、検討会議録には再発防止対策等の記載がある。	誤薬防止、及び安全な服薬支援を目指すため、服薬支援に関するマニュアルに沿った支援について全職員で再確認し、周知徹底することが望まれる。
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事が好きな方、歌が好きな方など個々の楽しみを把握し職員と共に楽しんで過ごしています。		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望があれば散歩やドライブに出かけています。	日常的な外出支援については、コロナ禍でも近隣にある公民館への散歩に出かけ、桜の花を見に行ったり、利用者からの希望で町内の公園等のドライブを実施している。散歩ができない利用者は玄関先や庭に出て外気浴を行ない、気分転換が行えるように支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理は基本家族にお願いしています。散歩時の飲み物代などいづらか家族から預かっている方もいらっしゃいます。		

自己評価および外部評価結果

確定日:令和4年 5月30日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があれば気軽に電話かけてもらっています。一人の方は携帯電話持ってる方がいるのでテレビ電話したりいつでもお話しています。		
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者、職員と一緒にソファでテレビを見ながら本人が安心してくつろげるように心がけています。	3階建ての2階部分が居間兼食堂の共有スペースとなっている。広々とした居間は、桜の木のあたる庭に面した大きな窓からの採光や風通しが良い。畳間があり床の間には利用者の書いた掛け軸が飾られている。居間にはソファが所々に設置され、座ったり、寝転がったり、テレビを観たり、本を読んだり利用者一人ひとりが好きな場所でゆったりと自由に過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	キッチンで職員とコーヒーやお菓子を食べながらおしゃべりしながらくつろいだり、見たいテレビを自由にみたりゆったりと過ごせる空間です。		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には家族写真や花を飾ったり、家族の手紙を壁に貼ったりと本人、家族が好きなように工夫しています。	各居室とも窓が大きく採光、風通しが良く、心地よい広さとなっている。各居室に電動ベッド、エアコン、ダンスやクローゼット等が備え付けられている。居室にはテレビやユニットケース、毛布等が持ち込まれている。壁には家族写真や花、作品、カレンダー等が貼られている。家族写真は本人が好きなように取り換えたりできるように工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、廊下には手すりを設置し、ベッドの配置を工夫したり移動しやすいように環境を整えています。		